

地域連携室便り

愛媛県立中央病院
地域医療連携室

No. 25 (2022年6月)

直通TEL 089-987-6270 (前方連携)
089-947-1165 (後方連携)
FAX 089-987-6271



長雨の候、皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

地域連携室便り No. 25 6月 を刊行いたしました。気軽に読んでいただけるようにと考えておりますが、皆様方からのご意見をいただければ幸いです。聞きたいこと・知りたいこと等、ぜひお知らせください。この機会にぜひメール登録をよろしくお願いたします。

今回の内容

- ① 新入職員 (MSW) 紹介 吉村真紀
- ② センター長挨拶 石戸谷浩
- ③ 小児外科紹介 野口伸一
- ④ 第114回医療連携懇話会「日常診療で遭遇する血液疾患
(専門科への紹介とフォローのポイントについて)」を終えて 名和由一郎
- ⑤ 院長のひとりごと 菅政治
- ⑥ 地域医療連携室からのお知らせ～メールのご登録のお願い～

① 新入職員(MSW)紹介

地域医療連携室 MSW 吉村 真紀

今年度から当院医療連携室でお世話になっている吉村真紀と申します。私はこれまで福祉の現場に長く従事してきましたが、今回、医療分野での仕事は初めてです。医療現場でこれまでの経験を少しでも活かしたいと期待感を持ちつつ、一方で周りの先輩方の仕事ぶりを見て自分も同じような活躍ができるかと不安も大きく感じています。

これまでとは異なる環境で早く仕事に慣れたいと焦る気持ちもありますが、そんな時は深呼吸し、気持ちを落ち着かせ、一つひとつやっていくことを意識しながら丁寧で確実な仕事をコツコツと着実に積み重ね、自分の自信へと繋げていけるよう努力していきたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



② センター長挨拶

循環器病センター長 石戸谷 浩

この度、循環器病センター長を拝命した 石戸谷浩 (いしとや ひろし)と申します。愛媛県では石戸谷という名前は珍しいと思います。調べると北海道、青森県、秋田県に多い名前だそうで、実際私の両親も東北出身です。私は小学校高学年になって松山に転校してきました。道後小学校、道後中学校、松山東高等学校、愛媛大学医学部を経て平成2年(1990年)に医師になりました。

大学を卒業後は東京女子医科大学の心臓血管外科に入局し外科医としての研鑽を積みました。当院は平成16年(2004年)から勤務しております。当時は富野副院長、佐藤部長にご指導を仰ぎました。その後18年間当院で心臓血管外科医として愛媛の医療に貢献させていただいております。

循環器疾患は心臓及び血管の病気であるために虚血性心疾患、心臓弁膜症、心筋症(重症心不全)、大動脈疾患、末梢動静脈疾患、肺梗塞、高血圧、動脈硬化…等多岐にわたっています。私は外科医であるために外科的疾患に偏ってしまうことをご容赦いただき代表的な疾患である以下の疾患の治療に関して振り返ってみたいと思います。

1. 虚血性心疾患

私が医師になった平成2年頃は、多枝病変や左主幹部病変は外科手術(冠動脈バイパス術:CABG)、単純病変はカテーテル治療(いわゆるPCI)の時代でした。CABGは人工心肺を要し、心停止下に行い、PCIも薬剤注入やバルーンで拡張するのみでした。その後さまざまな機器、技術、知識の蓄積でCABGは心拍動下でも行えるようになり、PCIは閉塞病変にも対応できるようになり、薬剤溶出性ステントやバルーンが出現、成績も著明に向上しました。

2. 心臓弁膜症

弁膜症の治療は内服治療(循環器科担当)で限界になった時点で外科医が手術するのが一般的な治療方法でした。外科医は当初弁置換術で治療していましたが自己弁温存術(形成術)での治療も可能になり、さらには小切開手術も普及してきております。画期的な進歩が2010年代に起きました。カテーテルでの弁膜症治療で、条件がそろえばかなり低侵襲での治療が可能となりました。当院では2015年から循環器内科とともに多職種で形成するハートチームで大動脈弁(TAVI)、僧帽弁(マイトラクリップ)の治療を行っています。弁膜症に合併頻度の多い不整脈治療(メイズ手術、アブレーション、左心耳閉鎖デバイス)も格段に成績が向上してきています。

3. 大血管疾患

狭窄、瘤化、解離した病的血管を人工血管で置換する治療が基本でした。外科治療の中でも高侵襲である為に全身状態の悪い方には治療介入できないこともありましたが、機器の進歩や技術の向上で近年は飛躍的に成績が向上しました。加えて、2000年頃からステントグラフト治療が始まり更なる低侵襲化が進み、高齢者や併存疾患の多い方にも治療介入できるようになってきました。

循環器疾患治療はこれからも更なる成績向上を目指していかねばなりません。当院循環器病センターは内科、外科一丸となり更なる高みを目指したいと考えております。

③ 小児外科紹介

小児外科 主任部長 野口 伸一

令和2年4月より小児外科主任部長を務めております野口伸一と申します。1988年に九州大学を卒業、同大学小児外科に入局し大学病院、福岡市立こども病院、松山赤十字病院等を経て当院へ赴任しています。新型コロナ感染症の影響で皆様方に直接ご挨拶する機会がなく心苦しく思っておりますが、松山市には研修医時代を含め計18年間在住しておりますのでお見知りおきの方もいらっしゃるかと思います。

小児外科は新生児から中学生までの小児を対象とし、主に胸腹部疾患を中心とした手術が必要な疾患の診療を行っています。具体的には、体表の良性腫瘍、鼠径ヘルニア、陰嚢水腫、臍ヘルニア、停留睾丸、虫垂炎、便秘症などの一般的な疾患から、新生児外科疾患、小児悪性固形腫瘍、ヒルシュスプルング病などの消化管疾患、胆道拡張症や胆道閉鎖症などの肝胆道系疾患などの重症疾患まで幅広く治療しています。

小児外科学会ホームページによりますと小児外科専門医とは「こどもを安心して預けることができる外科医」とされています。小児外科医を目指す場合、まずは成人外科にてトレーニングを積み外科専門医を取得する必要があります。その後に上記の多種多様な小児の手術を経験し小児外科専門医となるのです。2021年のデータでは小児外科専門医の数は全国で671名ですが都市部に偏在しています。愛媛県は4名で、うち2名が当科所属です。当科のスタッフは3名ですが、それぞれが小児外科指導医、小児外科専門医、外科専門医の資格を有しており当県唯一の日本小児外科学会教育関連施設Aとなっております。

当科は創の目立たない腹腔鏡下手術に力を入れており、鼠径ヘルニア根治術は全例鏡視下に行っています（LPEC: laparoscopic percutaneous extraperitoneal closure）。小児外科医にとって鼠径ヘルニア根治術は基本中の基本であるため、あえて鼠径部切開にて手術している施設もありますが、当科は患者さんにとって侵襲の少ないLPECを第1選択としています。虫垂炎等の緊急手術でもほぼ全例で腹腔鏡下に行っており、また他の手術でもなるべく腹腔鏡を併用して創を小さくするよう努めています。新生児例では当院総合周産期母子医療センターにおいて新生児内科のスタッフと共に対応しており、先天性の食道閉鎖症、横隔膜ヘルニア、腹壁破裂、先天性腸閉鎖症、腸回転異常症等の手術を行っています。出生前に見つかる病気に対しては、産婦人科、新生児内科及び関連各科のスタッフと共に出生前から診療計画を立てて対応しています。小児の悪性固形腫瘍については、手術は当科で行いますが、化学療法を含めた全身的な治療は小児科が主となって行っています。鎖肛やヒルシュスプルング病、胆道閉鎖症等の小児外科特有の疾患については、高校生となった後も引き続き診療を行っています。また尿管遺残症や卵巣嚢腫などのような成人であれば泌尿器科や産婦人科が扱うような疾患であっても、小児であれば当科で手術を行うことがあります。

愛媛県の15歳未満の小児人口は16万人弱で出生数は8千人を切っており減少の一途をたどっています。そのため小児外科疾患は症例数としては多くはありませんが、小児においてはその手術結果が一生に大きく影響を及ぼすため、一例一例後遺症のないよう、また創部が目立たないような手術を心掛けております。また当科の対象疾患には数年に一例程度の希少な症例や疾患も様々であるため他科の先生方や他施設と連携して治療にあたることもあり、患者さん・ご家族にとってより良い治療を提供できるように心掛けています。

当科は小児外科指導医、専門医が複数所属する当県唯一の施設であり、365日急患に対応できる体制を敷いています。産科、新生児科、小児科の諸先生方と連携し、愛媛県の小児医療に尽力したいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

④第114回医療連携懇話会「日常診療で遭遇する血液疾患（専門科への紹介とフォローのポイントについて）」を終えて

血液内科 臨床研修センター長 名和 由一郎

今回の第114回医療連携懇話会は、血液疾患と移植をテーマとして取り上げて欲しいと我々の方から懇願して、実現した経緯があります。血液疾患は少ないのですが、診断、治療が進歩し、確実に症例は増えていて、長期にコントロールされる患者も増えていきます。血液疾患は専門性が高いと敬遠されがちではありますが、連携できる所からお願いできればと考えます。COVID-19のパンデミックでは、当院は県の基幹施設としてマンパワーをCOVID-19診療にシフトし、通常診療を制限せざるを得ず、折角、ご紹介頂いたのに断らざるえない状況も多々ありました。その状況をなくすために、我々は、外来での化学療法を進めるとともに、今治や新居浜から紹介して頂いた患者さんに対しては当院で初期導入治療をした後、地元で治療を継続できる体制を構築し、なるべく、入院患者を減らす努力を進めてきました。COVID-19が落ち着いた後もその体制は継続し、愛媛県全体の地域医療構想（医師の働き方改革にも）にマッチした体制を整えたと自負しております。

今回、森正和医師からは「日常診療で血液疾患を見逃さない勘どころ」のテーマで、貧血、好中球減少、血小板減少、汎血球減少について症例提示をしながら話をしてもらいました。その中でも、コロナワクチン後の血小板減少も注意してほしい事項です。

中瀬浩一医師からは「ここまで進んだ造血幹細胞移植医療」を話して頂きました。当院は厚労省が進める造血幹細胞移植推進拠点病院に認定されており、地域連携を推進していくことは事業の柱の一つです。移植医療について、成績が上がっていること、対象年齢が上昇していること、栄養、リハビリなど支持療法も発展していること、末梢血や臍帯血、HLA不一致血縁ドナーなど、多様化したドナーが可能となり、ドナーが見つからない状況というのはほぼ解消されていることについて報告がありました。

血液内科病棟の奥元佐織看護師からは「移植サバイバーに対する長期フォローアップ外来の紹介」で、病棟看護師が外来に降りていき、移植患者に丁寧な問診、生活の指導をおこなっており、手厚いサポートをしているという報告をしました。私からは「造血細胞移植患者手帳の紹介とワクチン接種のお願い」を述べさせてもらいました。愛媛県内では年間30-40件の移植が行われており、地域の先生方がサバイバーの方を診療いただく機会も増えていくと思われ、その際には手帳を情報共有ツールとして活用していただきたいと思います。また、ワクチン接種にもご協力していただける施設を募集していますので名和(c-ynawa@eph.pref.ehime.jp)までご連絡ください。今回、講演では話題にあげませんでした。移植医療においては、近年、造血幹細胞移植コーディネーターが誕生したことは大きく、当院でも比較的早くに導入させ、中立的な立場で、患者、ドナーのコーディネートをこなし、多職種が関わる移植医療の中心的な存在となっています。血液というマイナーなテーマにも関わらず、現地、Webでも予想以上の多くの方に聴講いただき、本当に感謝を申し上げます。これからも皆様方と連携を深めていきたいと考えております。

⑤「院長のひとりごと」 院長 菅 政治 ネギとフォーリーカテーテル

導尿用バルーンカテーテルは泌尿器科医にとって馴染みのある器具で、一般的な二股のものはフォーリーカテーテルといい、尿流出用と膀胱内で膨らむ風船の注水ルートからなり、1929年に考案したフレデリック・フォーリーの名前を残しています。貢献度の大きな発明で米国泌尿器科学会100周年時のカレンダーのトピックスにも取り上げられています。ちなみに、導尿の歴史は古く紀元前からで、いろいろな器具が使われましたが、漆コーティングのネギも使われたと聞いて驚き、二千年の時を経て、フォーリーさんもネギの二股をみて思いついた？などと想像しました。また、ネギとカテーテルで調べると尿が出なくなった時に本当にネギで導尿を試みて異物となり摘出した例があり、またびっくりしました。



⑥地域医療連携室からのお知らせ

今後各種ご案内やお知らせ（医療連携懇話会案内・地域連携室便りなど）はメール配信を推奨させていただきますと考えております。他、県立中央病院ホームページのタイムリーな更新情報も順次配信予定です。メールでの配信を希望される医療機関様につきましては、お手数ですが、下記メールアドレスへ医療機関名を記載し、送信をお願いいたします。



ご意見

ご希望

<件名>メール登録（医療機関名）<本文>・医療機関住所、電話番号

E-Mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

メールのご登録で…

医療連携懇話会の
動画配信が
ご覧いただけます！



動画配信
3つの
ポイント！



①
お好きな
時間に



②
繰り返し
再生！



③
3密
回避



お問い合わせ



愛媛県立中央病院 地域医療連携室 <担当>濱田・三好

TEL : 089-947-1111(代) FAX : 089-987-6271 E-mail : c-renkei@eph.pref.ehime.jp

次回第116回医療連携懇話会のお知らせ

日時 令和4年 7月13日(水) 19:00~20:00

テーマ 「多職種で診る、難敵
“胆道・膵癌”へのアプローチ」

<座長> 副院長 原田 雅光

<講演> 消化器内科 部長 黒田 太良
消化器外科 部長 花岡 潤
薬剤部 係長 西畑 友尋
栄養部 担当係長 三ツ井 照代

お申込・詳細はコチラから Click!

<リンク先> 愛媛県立中央病院ホームページ



媛さくらネット

地域医療連携ネットワークサービス 媛さくらネット

詳しくはコチラから Click!

<リンク先>
愛媛県立中央病院ホームページ

地域連携室便り

次回7月号(No.26)は
7月中旬頃刊行の予定です。
お楽しみに！

